

鹿児島県本土におけるニセヒロハノコギリシダの確認報告

立久井昭雄

〒 890-0036 鹿児島市田上台

はじめに

2014 年 9 月 16 日、鹿児島県薩摩川内市藤本にて、ニセヒロハノコギリシダの標本を採取していた。2025 年 3 月 17 日と 4 月 4 日に詳しい生育状況調査を実施したので報告する。

ニセヒロハノコギリシダ (*Diplazium dilatatum* Blume var. *heterolepis* Seriz.) はメシダ科 (Athyriaceae) のヒロハノコギリシダの変種で、常緑性の大型のシダ植物である。

国内の分布は紀伊半島、屋久島、奄美大島、徳之島、沖縄 (岩槻, 1992)、本州の和歌山県、九州南部、種子島、屋久島 (海老原, 2017) の記載がある。鹿児島県の分布は屋久島、徳之島 (初島, 1986) の記録がある。標本は南さつま市、西之表市、十島村 (鹿児島県立博物館収蔵資料データベース)、指宿市、下甕島、悪石島、種子島、屋久島 (鹿児島大学博物館維管束植物 DB) の収蔵がある。

生育地の状況

生育地 (図 1A) は山の緩やかな斜面で、昔はミカン畑だったとのことである。中腹を通る林道脇の林内にニセヒロハノコギリシダが生育している。ミカンの栽培が行われなくなった後、スギが植林され、現在は大きなもので胸高直径 32 cm、高さ 26 m 程である。スギは枝打ちが実施されており、林内はさほど暗くない。しかし、ここ 20 年程は林内の手入れが行われず、樹木や草本が茂っている。高さ 7 m 程のバクチノキ、シロダモ、ヤブニッケイ、シロバイ、バリバリノキが点在している。その下部には、高さ 3 m 程のヤマビワ、イチイガシ、ネズミモチ、チャノキ、ナワシログ

ミ、タイワンアキグミ、イタジイ、ヤブニッケイ、シュロ、タブノキ、アラカシ、イヌマキ、クロキが見られる。林床にはシロヤマシダが優先し、その中にカツモウイノデ、イズセンリョウ、ハナミョウガ、イノデ、ハマクサギ、マンリョウ等が見られる。

分布状況

上記のような環境の中、横 30 m、縦 15 m 程の広さに約 49 株を確認した。単独で生育しているものや数株が狭い範囲に集まって生えている場所もある。本シダは鹿児島県本土南部以南に広く分布しているが、記録や標本が少ない。群落を作らず、点在し、個体数が少ないものと思われる。また、ヒロハノコギリシダと酷似しているため、見落とされてきた可能性もある。ここでは狭い範囲に多くの株の生育が見られるので、特異で貴重な場所と考えられる。周辺も似たような環境であるが、本地以外では確認できなかった。

確認した特徴

根茎 (図 1C) は太く、短くはい、葉が接近して出る。葉柄の基部から 20 cm の部分にりん片が密生し、それより上は少なくなる。基部から 8 cm の間のりん片 (図 1G, I) は、長さ 8 mm、幅 3 mm と大きく、やや明るい褐色で、縁に小さな突起がある。黒い縁取りが無いものがほとんどであるが、部分的に黒い縁取りがあるものも見られる。それより上のりん片 (図 1H, J) は、長さ 6 mm、幅 1 mm 程と細長く、部分的に黒い縁取りがあることもある。葉身 (図 1B) は大きな三角

Tachikui, A. 2025. A locality of *Diplazium dilatatum* var. *heterolepis* from the Kagoshima mainland. *Nature of Kagoshima* 52: 155–156.

✉ AT: Tagamidai, Kagoshima-shi, Kagoshima 890-0036, Japan (e-mail: akiotachikui@outlook.jp).

Received: 13 December 2025; published online: 16 December 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-037.pdf



図1. 確認されたニセヒロハノコギリシダ。A: 生育地。B: 葉身。C: 根茎。D: 羽片。E: 小羽片。F: ソーラス。G: 葉柄基部の鱗片。H: 葉柄基部上部の鱗片。I, J: 鱗片の拡大図。K: 新芽。

形状で、長さ 90 cm、幅 60 cm 前後である。大きい葉の下部羽片基部の小羽片（図 1E）は浅裂し、裂片の後ろ側は丸く、前側はとがる。小羽片は基部が最も大きく先は次第に小さくなる。小さな葉は 1 回羽状複葉で、同じ種類に見えない。葉面にはあまり光沢がなく、鮮緑色のやや厚い紙質である。下部羽片には 2.5 cm 程の柄がある。羽片基部の小羽片の柄はごく短いか無柄である。胞子のう群（図 1F）は線形で、中肋から縁に向かって伸びる。包膜は線形の薄い膜質で、縁は細かく裂ける。

証拠標本

作製した標本は、鹿児島大学総合研究博物館（KAG）に収めることとしている。

引用文献

- 岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社, 東京. 311 pp
- 海老原淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑2. 学研プラス, 東京. 450 pp.
- 初島住彦. 1986. 改訂 鹿児島県植物目録. 鹿児島植物同好会. 鹿児島. 290 pp.
- 鹿児島大学博物館維管束植物 DB Rel. 2.20 <https://dbs.kaum.kagoshima-u.ac.jp/musedb/s_plant/s_plant.php> (accessed 13 December 2025)
- 鹿児島県立博物館収蔵資料データベース <https://jmaps.ne.jp/kagoshima_pref_museum/index.html> (accessed 13 December 2025)